

1. 海溝型地震の津波評価

- 地震調査委員会では、これまで取りまとめてきた地震発生可能性の長期評価に基づいて、津波の評価を初めて実施。
- 今後30年以内に南海トラフ沿いで大地震が発生し、海岸の津波高が**3m以上、5m以上、10m以上になる確率**を評価。

2. 評価の流れ

- 「南海トラフの地震活動の長期評価(第二版)」(平成25年5月公表)で想定されている、**100年～200年で繰り返し発生する大地震(M8～M9クラスの地震)**を評価の対象。なお、**最大クラスの地震は対象外**。
- 震源域の組み合わせとして176のパターンを想定。さらに、「波源断層を特性化した津波の予測手法(津波レシピ)」(平成29年1月公表)に従って、大すべり域[※]の設定も含めて348,345ケースで津波高を計算。

※大すべり域:ある震源域の中で、すべり量の大きな領域。

- 各ケースの起こりやすさを重み付けし、津波高の計算結果を評価地点ごとに重ね合わせて、ある評価地点における確率を算出。それらをまとめて、**地図と市区町村ごとの表**として表示。

- 本評価は多様な地震を考慮した確率論的な津波の評価であるが、これがより広く有効に津波防災対策に活用されるためには、今後、活用する方法のさらなる研究や検討が必要。

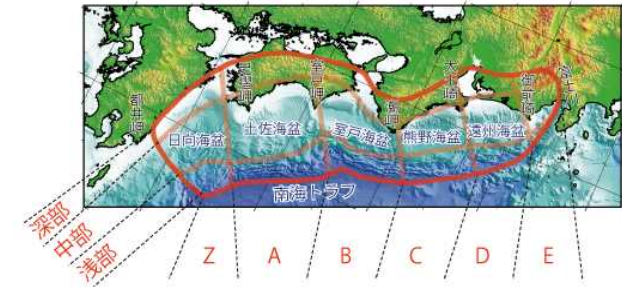


図1 南海トラフの評価対象領域とセグメント

深さ	推定破壊域					
	Z	A	B	C	D	E
浅部						
中部						
深部						
浅部						
中部						
深部						
浅部						
中部						
深部						
浅部						
中部						
深部						

図2 震源域の組み合わせのパターンの例

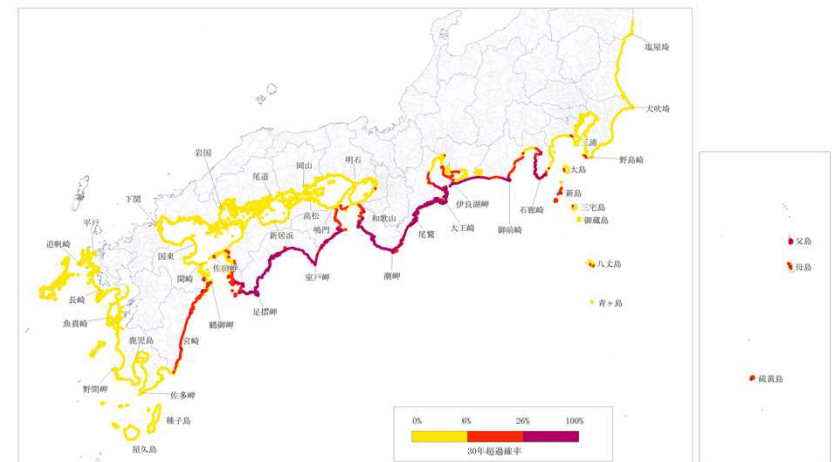


図3 今後30年以内に南海トラフで大地震が発生し、海岸の津波高が3m以上になる確率